

スケール(鉄道模型)

目次

1. 概要 2

2. 商品知識

2-1.鉄道模型とは 3

①鉄道模型の分類 3-4

②車両の名称 5-6

③鉄道模型に必要なもの 7-8

④レール 9-10

2-2.Nゲージ車両の年代見分け方

①kato 11

②TOMIX（トミックス） 12

③マイクロエース 13

④レール 13

3. KATO・TOMIXのマーク説明 14

4. 展示方法 15

更新履歴			
更新日付	更新内容	担当部署	担当者
2026/1/14	新規作成	直営店舗運営部	T.Arai

1. 概要

- ①鉄道の形を模した縮尺模型を鉄道模型と呼称します。
根強い人気がある定番商品であり、流行に左右されにくいジャンルです。
縮尺模型としてだけではなく、実際の鉄道愛好家にもコレクターがいます。
- ②ここでは実際の車両の種類・各鉄道模型メーカーごとの特徴について説明します。
鉄道模型はスケールや素材によって価格に大きな差があります。
見分けるポイントは動力の有無・車体の大きさ・メーカーなどです。
- ③日本の日本の鉄道模型メーカーは、主にNゲージ（線路幅9mm）を得意とするメーカーと、HOゲージ/16番（1/80スケール等）を中心とするメーカーに大別されます。

○Nゲージの主要メーカー

日本で最も普及している規格で、以下の3社が市場の大部分を占めています。

・KATO TOMIX（トミックス）、tomytec含む マイクロエース



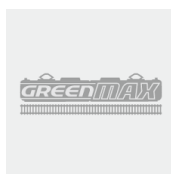
○HOゲージ・16番の主要メーカー

より大型で精密な模型を中心とするメーカーです。

・天賞堂 カツミ（KTM） エンドウ

○その他海外メーカー

・グリーンマックス メルクリン



♻️ポイント

実は近隣で実際に走っている車両・路線が人気（売れ筋）のことが多いです。

まずは地元の駅や路線を調べて、店頭在庫と見比べてみましょう。

全国相場だけでなく、地域特性が価格や人気に反映されるのがこのジャンルの面白さです。

2. 商品知識

2-1. 鉄道模型とは

鉄道模型とは、実物の鉄道車両や線路、情景などを一定の比率で縮小して再現した模型の総称です。

多くの場合はレールから電気を供給して車両を自走させることができるのが大きな特徴です。

① 鉄道模型の分類

鉄道模型の縮尺（スケール）は国や規格によって異なります。

代表的なものはHOゲージ・Nゲージとなります。



・HOゲージ

HALF Oゲージの略。1/80～1/87スケール。軌間：16.5mm

厳密には1/80の「16番ゲージ」と1/87の「HOゲージ」は違う商品ですが、日本ではまとめて「HOゲージ」と呼称することが多いです。

真鍮製

メーカー：カツミ、エンドウ、天賞堂など（金属製）

20～40年前の古いものが多い。中古売価は機関車などが1両10,000～30,000円

客車、貨車などが1両2,000～5,000円 2000年台以降の新しいものは高額。

中古売価は機関車などが1両30,000～80,000円

プラ製

メーカー：KATO、TOMIX、マイクロエース、天賞堂など

2000年頃から本格的に製品化。

製造コストが安いため、真鍮製に比べ安価。

中古売価は機関車などが1両10,000～30,000円

客車、貨車などが1両2,000～8,000円

電車4両セット30,000～50,000円

・Nゲージ

NINEゲージの略（軌間が9mmなので）1/150～1/160スケール。軌間：9mm
日本の家庭事情で一番普及している鉄道模型です。

真鍮製

メーカー：エンドウ、ワールド工芸など（金属製）
エンドウ製品は1980年台に廃盤。すべてがレア商品。
ワールド工芸は手作り品のため高価。車体番号などでも価格に差がつきます。

プラ製

メーカー：KATO、TOMIX、マイクロエース、グリーンマックスなど
基本的には古いものより新しいものの方が人気で高額、新しいものは機能も向上しています。
KATO、TOMIX、グリーンマックスの価格は落ち着いています。
マイクロエースは基本的に1回しか生産されないの、
プレミアがつくか売れ残りセールになるかのどちらかです。

・鉄道コレクション

「鉄道コレクション（鉄コレ）」とは、トミーテックが展開する、実物の鉄道車両を縮小したディスプレイモデルです。
Nゲージ規格の鉄道模型として走行させることも可能です。
比較的安価でマニアックな車両も多く、初心者からマニアまで楽しめるのが特徴です。

○以下のスケールは取り扱う機会の少ない商品です。

・Oゲージ

Oスケール（アメリカ）の頭文字が語源。1/43～1/48スケール。
軌間：32mm 店頭販売品はほぼありません。特注品やショップオリジナル品が主流。
中古売価は1両50,000円以上と高額です。

・Zゲージ

これ以上小さいものはない（A,B,C…X,Y,Z）が語源です。1/220スケール。軌間6.5mm
メーカー：メルクリン、天賞堂、六半、東京マルイなど
細かい部品が多用されているためNゲージよりも高額です。
中古売価は機関車などが1両5,000～20,000円
電車4両セット8,000～30,000円

・Gゲージ

Gはドイツ語のGross（大きい）に由来し、当初ドイツで盛んになりました。
1/22.5スケール。軌間45mm
メーカー：レーマン・メルクリンなど
庭園鉄道として屋外で走らせることが可能です。

ポイント

ホビーオフで取り扱う鉄道模型の大半はHOゲージ・Nゲージになります。

②車両種類（オフモール上の分類）

・新幹線

主たる区間を列車が時速200キロメートル (km/h) 以上の高速で走行できる日本の幹線鉄道です。

種類は路線（東海道・山陽・東北など）と列車名（のぞみ・はやぶさ等）、車両形式（N700系・E5系等）の3つの観点から分類されます。



（700系新幹線のぞみ）

・電気機関車

主として車外から電力の供給を受けて運転し、動力に電動機を用いる機関車です。



（国鉄EF64電気機関車）

・ディーゼル機関車

動力又は駆動用電力の発生装置に内燃機関（燃料電池を含む）を用いる機関車です。

主な種類には、電気式気動車（キハ183系など）
電気式ディーゼル機関車（DF200形など）、
液体式ディーゼル機関車（DD51形など）があり、
ハイブリッド方式も登場しています



（DE10形 ディーゼル機関車）

・蒸気機関車

主として車外から電力の供給を受けて運転し、動力に電動機を用いる機関車です。

日本では「SL（エスエル）」という呼び名で親しまれています



（C11形蒸気機関車）

・電車

電気を動力源としてモーターを回し自走する鉄道車両です。
一編成のうち約半分の車両に動力が入っています。

車体側面に車体番号や記号が記載されています。
両端に制御車（略称ク）があり、間に電動車（略称モ）や
付随車（略称サ）が挟まります。



（E231通勤電車）

・ディーゼルカー

主として車外から電力の供給を受けて運転し、
動力に電動機を用いる機関車です。
乗客が乗る座席や荷物を載せるスペースがあります。



（キハ26 ディーゼルカー）

・客車

主に旅客を輸送するために用いられる車両です。
機関車に牽引されて走行します。
動力はありません。



(国鉄14系客車)

・私鉄 第3セクター

第3セクター鉄道は、自治体（公）と民間企業（私）が共同出資して設立した会社が運営する鉄道のことです。
主に、赤字のために国鉄やJRから切り離された路線（特定地方交通線など）や、新幹線開業に伴いJRから経営分離された「並行在来線」を引き継ぐ形で誕生しています。
ワンマン車両やラッピング列車など特徴のある列車もあります。

・私鉄 第3セクター 電車

ローカル線でのワンマン運転に対応した、短編成（1～2両）の軽量かつ高効率な車両が主体です。



(東京メトロ07系東西線)

・私鉄 第3セクター 客車

コストダウンのため、JRや他の大手私鉄から車両を購入・譲渡して運用する例が多いです

・私鉄 第3セクター ディーゼルカー

1両単独で運転できる「両運転台」車両が多いです



(コキ50000形貨車)

・貨車

荷物を載せるためだけの車両です。
機関車に牽引されて走行します。

・海外車両

日本国外の地域で使用されている車両です。
有名なものとしてフランスのTGV・スイスの氷河特急などがあります。



(アムフリート
ビューライナー)

・特殊車両 その他

主に保守・点検を行う作業用車両や、特別な目的で運行される列車などです。
皇族が使用されるお召し列車、線路や路線の検査を行うドクターイエローなどが有名です。

🔄ポイント

名称を覚えておくとプライスカードに詳細な分類を記載できます。

③鉄道模型の動作に必要なもの



・パワーパック

線路に電気を送って、車両を動かすためのコントロールユニットです。直流0～12Vを調整することで、車両のスピードを調整します。前進、後退スイッチを切り替えると2本の線路に流れるプラスとマイナスの電気が逆になり、車両のモーターが逆回りすることで、車両が前進したり後退したりします。最低でも1個ないと車両を動かして遊ぶことができません。2個あれば複線にして、2列車を別々に走らせることができます。

・ポイントスイッチ

ポイントレール遠隔操作するためのスイッチです。遠隔操作しないのであれば必要はありません。

・線路

車両が走る場所です。Nゲージの線路であれば、どこのメーカーのNゲージであっても走らせることができます。2本の線路にはそれぞれプラスとマイナスの電気が流れています。

この線路の上にピンセットを置いたり、ドライバーを置いたり、電気を通すものを置くと電気がショートして火花が散ります。（同時にパワーパックのブレーカーが落ちます）非常に危険なので、動作チェック時などには要注意です。

円を描くように線路を配置するのが基本ですが、ある程度の長さの線路がないと遊べません。

KATOの線路はKATOのパワーパック、TOMIXの線路はTOMIXのパワーパック（パワーユニット）がそれぞれ必要です。（接続するコネクタの形状が異なるため。）

・車両

モーターが入った車両（＝動力車）が最低1両必要です。
機関車1両だけでも遊べます。
新幹線や電車などはいろいろなメーカーから発売されている
「基本セット（4～7両くらい）」を買えば、お手軽に遊べます。

ちなみに増結セットは基本セットの編成を長くするセットなので、増結セットだけでは遊べません。
買取時も基本セットと増結セットが一緒に来た場合は、セットで販売するのがベストです。
（バラして売ると増結セットだけが売残るケースが多いです）

・鉄道模型の動作方法

鉄道模型（Nゲージなど）の動作確認は、パワーユニット（コントローラー）、フィーダー（給電線）、レールの接続を確認します。

暴走防止のため、必ずパワーユニットは停車位置に設定してください。
※リレーラーを使用すると車両を線路に乗せやすいです。

低速から徐々に通電して動かします。

動きが悪い場合は線路をクリーナーなどで掃除すると走行する場合があります。

・注意点

市販の9V乾電池を車輪に直接当てて動作確認をする手法がありますが、車両のモーターや基板に過度な負担がかかるため、ホビーオフでは原則禁止です。必ず専用のコントローラーを使用してください。



ポイント

動作チェック用にNゲージ・H0ゲージ用のコントローラー・DCフィーダー・直線レールが必要となります。

④ レール

現在発売されている日本メーカーのNゲージのレールは、KATO製とTOMIX製の2社です。Nゲージは直流0～12Vの電圧を調整して、車両に搭載されたモータの回転方向・速度を変化させて走行させています。

KATOのレールでTOMIXの車両を走らせることなどは問題ありませんが、KATOのレールシステムをTOMIXの制御機で遊ぶこと（つなぐこと）はできません。

・ KATO(ユニットラック)

KATOのレールシステムは「ユニットラック」と呼ばれています。

ユニットラックは発売当初より、細かいモデルチェンジはあるものの、構造は変わっていませんので初代のレールと最新版のレールをつないで遊ぶことができます。



KATOの場合、運転するための制御機のことを「パワーパック」と呼びます。

レールへの電力供給は「フィーダー線路」と呼ばれる青白コード付のレールをつなぎます。つなぎ方は初代のものも最新版のものも、同じ形状のコード端子なのでワンタッチで接続が可能です。

ポイントレールは手動で切り替えることもできますが、すべて電動切替可能です。

切替を遠隔操作する機械を「ポイントスイッチ」と呼びます。

ポイントスイッチはパワーパック側面にワンタッチで接続して電気が供給されます。

ポイントスイッチとポイントレールはポイントレールに付属の赤黒コードでワンタッチで接続が可能です。

ポイント

Nゲージのレールはメーカーを跨いでの互換性はありません。

パワーユニットも互換性がないので販売時はメーカーごとに分ける必要があります。

・TOMIX(ファイントラック)

TOMIXのレールシステムは「ファイントラック」と呼ばれています。

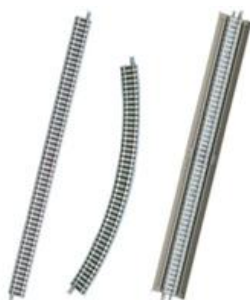
現行品のモデルからファイントラックと呼ばれていますので 茶色いレール、

初期の灰色のレールは特に呼称がありません。

ファイントラックの特徴はレール接続部分に突起があり「カチッ」としっかりつながります。

旧来のレールとは互換性がありますので、レール同士の 接続はできます。

旧来の茶色いレールもローカルレイアウトを作る人に人気がありますので問題なく売れます。



TOMIXの場合、運転するための制御機のことを「パワーユニット」と呼びます。

レールへの電力供給は「DCフィーダー」と呼ばれる茶色いコードを任意のレールに差し込みます。

つなぎ方はファイントラックのみ、ワンタッチで接続が可能です。

旧来のものは端子がなくバラケーブルなので、1本1本をそれぞれの端子に差し込みます。

ポイントレールは手動で切り替えることもできますが、電動切替可能になっています。

切替を遠隔操作する機械を「ポイントコントローラー」と呼びます。

ファイントラックのポイントコントローラーはパワーユニット側面にワンタッチで接続して電気が供給されるようになっています。

ポイントコントローラーとポイントレールはポイントレールに付属の茶色いコードでワンタッチで接続が可能です。

旧来のポイントコントローラーはパワーユニット背面の端子と緑のコードでつないで電気が供給されるようになっています。

ポイントコントローラーとポイントレールはポイントレールに付属の赤青黄の3本のコードをそれぞれの端子に 差し込みます。

🔄ポイント

レール接続部の突起は破損しやすいため注意が必要です。

2-2.Nゲージ車両の年代見分けかた

Nゲージは同一のメーカー・車両であっても製造時期により値段に大きな差があります。
また、ごく稀にケースと中身が異なる場合があります。
ここではメーカーごとに各年代ごとの特徴を記載します。

①kato単品

・1960～1980年

箱のインサートは白と黒の2色刷り。
品番は3桁。ライトが点灯する車両はない。



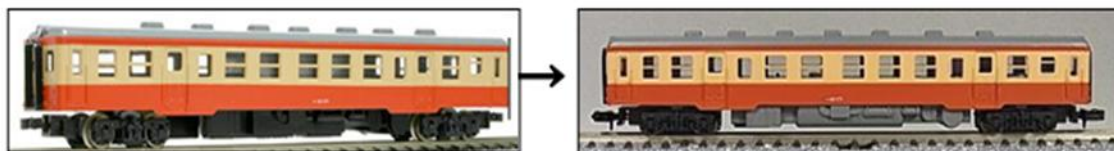
・1980～1987年

箱のインサートは白と黒 + 1色の3色(2色)刷り。
電車は「緑」、気動車は「赤」、電気機関車は「青」、
蒸気機関車は「黒」品番は3桁。
電車でライトが点灯する車両はないが、オプションで後付け可能。
電気・ディーゼル機関車はライト点灯。蒸気機関車は非点灯。



・1984～1990年

箱のインサートは青と銀ベース(+白)の3色刷り。
品番はこれ以降4桁。全車両がライト点灯。
(一部商品のみオプションで後付け)
動力機構が変更。(窓から見えないように)



・1987～2000年台初頭

箱のインサートは白と緑ベース(+赤)の3色刷り。
全車両がライト点灯。
電気機関車の動力機構が変更。
(フライホイール化=急停止しても惰性でしばらく走る)



・2000年代初頭～現在

箱のインサートは緑ベース(+赤、白)の3色刷り。
全車両がライト点灯。
ディーゼル機関車の動力機構が変更。(フライホイール化)



🔄ポイント

ごくまれにケースと中身が異なる場合があります。
車両の仕様を確認して、中身と間違いがないかチェックしてください。

②TOMIX単品

・1976～1986年

「N-SCALE」表記あり。品番の表記が小さい。
電気機関車の一部のみライト点灯。それ以外は非点灯。
動力車以外の車輪はプラスチック製が多い。
貨車、客車は紙箱。
日本製、香港製。
郵便番号が3桁。

・1982～1995年

ほぼ全車両のライトが点灯。
動力車以外の車輪はプラスチック製が多い。
貨車、客車は紙箱。
日本製のみ。
郵便番号が3桁。

・1991年～現在

全車両のライトが点灯。
車輪は金属製に統一。
貨車、客車は紙箱。
日本製、中国製。
裏面バーコード脇に定価表示あり。
ライト点灯マークに「CL」が付加されている。
※CL：停車中でもライトが点灯するTOMIX独自の常灯システム

・1992年～現在

HG（ハイグレード）
全車両のライトが点灯。車輪は金属製に統一。
ユーザー取付パーツが多い。通常のものより精密。
インサートの紙の色は、濃い灰色ベース、ロゴは金色。
種類は多くないが、通常品よりも割高。
電車、機関車だけの販売。客車、貨車はなし。



△ポイント

KATO同様こちらもケースと中身が異なる場合があります。
中身の仕様で確認をしてください。

③ マイクロエース

・1990年代～2010年

紙ケースは黄土色ベース。車両ケースは基本灰色。
(車両の色に合わせて赤、青、黄などもあり)

注意点：長い間（3年程度）動かしてないと、
モーターのグリスが固まって動力車が走らないケースがあります。
未使用品でも動作NGの場合があるので、確認が必須です。

・2009年～現在

紙ケースは青色ベース。車両ケースは水色。
プレミアム品と値崩れ品の差が激しいので、
中古売価はオークションサイト等で検索が必要となります。



🔄ポイント

動きが悪い車両はその分値段を下げます。
走行可能な状態の線路上で前後に車両を動かすと動作が復活する場合があります。
※前後に動かすのは買取完了後に行うこと。

④ レール

・古いkato(～1988)

裏面にユニトラックの記載あり
katoのロゴあり



・古いTOMIX (～1993)

裏面にファイントラックの記載あり
tomixのロゴあり



🔄ポイント

見分けるポイントは「メーカー名」「商品名」です。
katoとTOMIXのレールを接続することはできません。
生産時に混在しないよう注意が必要です。

3. KATO・TOMIXのマーク説明

ここではKATO・TOMIX製品に記載されているマークについて代表的なものを説明します。
(パッケージ、説明書に記載)

・ KATO

■表示マークの解説

・標準装備

 : モーター付き動力車

 : ヘッド/テールライト点灯(消灯スイッチ付)

 : 点灯式ヘッドマーク

 : KATOカプラー密連形

・ TOMIX

・モーター

 : フライホイール付動力機構の動力車(モーター車)

 : フライホイール付動力機構以外の動力車(モーター車)

・ヘッド・テールライト

 : ヘッドライト2灯以上が点灯する車両

 : テールライトが点灯する車両

・室内照明ユニット

 : 常点灯用室内照明ユニットを装備する車両
また、オプションで取り付けられる車両

 : オプションの室内照明ユニットが取り付けられる車両

ポイント

大半が通電確認を必要とするマークです。
パッケージや説明書と照らし合わせて各部の動作確認をしてください。

4. 展示方法

鉄道模型の陳列ルールまとめ

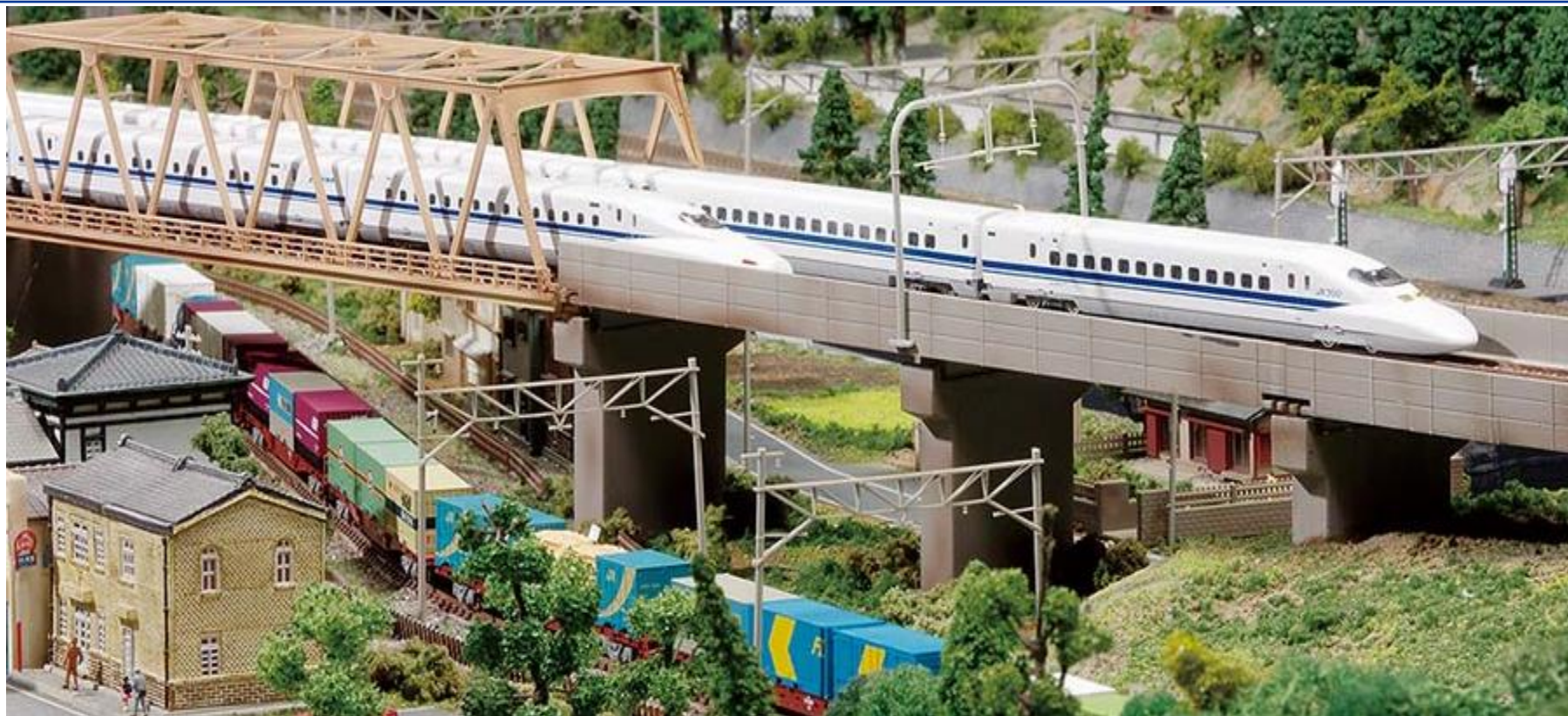
- 什器ごとの展示
 - ・ 棚: 安価なストラクチャー（建物）やパーツ類などを配置します。
 - ・ ガラスケース: 高額商品、単品車両、およびセット商品を展示します。
- 基本の分類（優先順位順）
 - ・ 種類別: まず「HOゲージ」と「Nゲージ」に分けます。
 - ・ 形態別（Nゲージ）: 「単品車両」と「セット商品」をそれぞれ分けます。
各メーカー（KATO、TOMIXなど）ごとにまとめます。
※HOゲージについては、メーカー別の分類のみで問題ありません。
- OGケース内での展示（Nゲージ）
 - ・ セット商品はメーカーごとにまとめて展示します。
地域別、および車両の種類別（単品）でまとめて展示します。
上段にセット商品、中段には単品車両、下段にはHOゲージや高額なストラクチャーを展示すると見やすくなります。
- 什器展示の場合、
 - ・ 上段にはセット商品など大型商品
中段には箱なし商品のフック販売またはNゲージの貨車など比較的安価な商品
下段にはストラクチャーや鉄道関連グッズなどをVBOXに陳列します
- 展示方法（見せ方）
 - ・ セット商品はお客様が商品名をすぐに確認できるよう、ケースの背（ラベル面）を正面に向けて陳列します。
 - ・ 高額な単品車両は車両側面が見えるように展示します。



ポイント

セット商品は日焼防止のため、ケースに入れたままの陳列が好ましいです。

オフモール 「鉄道模型」 研修



入室しましたら、「店舗名 苗字」に変更してください

講師 Y埼玉エリア 統括

遠藤晴広

Y千葉イオンマリンピア専門館 店長 小熊悠渡

① カテゴリー分けは間違えなく

カテゴリ選択

キーワード 検索(F) リセット(R) ☐ ツアー表示ON 中止(N)

検索結果

名称	カテゴリ	備考
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 新幹線	
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 電気機関車	
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 ディーゼル機関車	
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 蒸気機関車	
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 電車	JR・旧国鉄車両
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 ディーゼルカー	JR・旧国鉄車両
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 客車	JR・旧国鉄車両
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 私鉄・第3セクター電車	私鉄・第3セクター車両
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 私鉄・第3セクターディーゼルカー	私鉄・第3セクター車両
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 私鉄・第3セクター客車	私鉄・第3セクター車両
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 貨車	
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 海外車両	外国車両・機関車トーマス含む
Nゲージ(1/150)・車両	Nゲージ車両 特殊車両・その他	ドクターイエロー・検査車両・999等
Nゲージ(1/150)・セット	Nゲージ 車両・レールセット	
Nゲージ(1/150)・セット	Nゲージレールセット	レールのみもしくはパワーユニット付き
鉄道関連	パーツ・アクセサリ	鉄道模型パーツ・アクセサリ

☐ 検索アシストOFF 対象名称が無い場合は登録して下さい(A) 決定(S)

① カテゴリー分けは間違えなく

●新幹線



●電気機関車



パンタグラフが付いている
車両形式が「E」で始まる

●ディーゼル機関車



赤・朱色が多い
車両形式が「D」で始まる

●蒸気機関車



黒色
車両形式が「C」 or 「D」

●電車 (JR・国鉄)



パンタグラフが付いている
車両形式が「モ」「サ」「ク」で始まる



① カテゴリー分けは間違えなく

● ディゼルカー (JR・国鉄)



パンタグラフが付いていない
車両形式が「キ」で始まる

● 客車 (JR・国鉄)



パンタグラフが付いていない、動力がない
車両形式が「ナ」「オ」「ス」で始まる

● 電車 (私鉄・第3セクター)



パンタグラフが付いている 路線名が〇〇鉄道、××電鉄など
車両形式が「モ」「デ」「サ」「ク」で始まる

● ディゼルカー (私鉄・第3セクター)



パンタグラフが付いてない
路線名が〇〇鉄道など

① カテゴリー分けは間違えなく

● 客車 (私鉄・第3セクター)



パンタグラフが付いていない、動力がない
路線名が〇〇鉄道

● 貨車



パンタグラフが付いていない、動力がない
荷物を運ぶ車両

● 海外車両



● 特殊車両



機関車の形式称号

機関車・電車・貨車など、鉄道車両にはすべて、その車両を管理・運用するための記号番号が必ず付いています。それが「形式称号」で、鉄道入門のABCともいえるものです。形式称号の付け方にはルールがあり、国鉄時代では、一定の規定に従って系統的に付けられていました。ここでは、機関車の形式称号についてご説明します(JRになってから登場の車両についてはこの限りではありません)。

蒸気機関車 (SL)

現在使われている形式称号規定の基本は昭和3年(1928)に制定されました。当時は「機関車」といえば蒸気機関車を指すのが当たり前だったため、電気機関車やディーゼル機関車のような、動力の種類を表す記号は省略されています。



① 動力種別を表す記号

動力(動力を伝える動力の車軸)の数をアルファベットに対応して表します。

形式記号	B	C	D	E
動力数	2	3	4	5

② 機関車種類による形式番号

蒸気機関車の燃料(石炭)と水の積載方法の種類を区分します。

- ・10~49…タンク式機関車(機関車自体に石炭庫と水タンクを設置。主に短距離・入換用)
- ・50~99…テンダー式機関車(石炭と水を積載したテンダー車を機関車に連結。中・長距離用)

③ 同一形式内での製造番号

製造順に1から付番。蒸気機関車の場合、いわゆる番台区分はほとんどなく、仕様変更されてもそのまま続き番号がつけられました(D60の100番台や下記の鉄道院形式称号のような例外もあります)。

● 鉄道院形式称号

昭和3年(1928)以前に製造された機関車は、明治42年(1909)に鉄道院で制定された旧形式称号によって付番されました。18900→C51、9900→D50のように新形式称号に変えられたものもあります。

- ・1 ~ 999…B形タンク式機関車
- ・1000 ~ 3999…C形タンク式機関車
- ・4000 ~ 4999…D形・マレー形タンク式機関車
- ・5000 ~ 6999…B形テンダー式機関車
- ・7000 ~ 8999…C形テンダー式機関車
- ・9000 ~ 9999…D形・マレー形テンダー式機関車

電気機関車 (EL)

電気機関車は、電気—Electricの頭文字Eが先頭に付きます。後は蒸気機関車に準拠します。



① 動力数を表す記号

先輪や中間軸、軸配置などには関係しません。EH10やEH500は、2車体で1台として8軸に数えます。

形式記号	B	C	D	F	H
動力数	2	3	4	6	8

② 機関車種類による形式番号

電気機関車の場合は、電気方式と性能(最高運転速度)によって区分されます。

形式記号	電気方式	性能
10~29	直流	最高運転速度85km/h以下。旧形貨物機・区間用貨物機・アプト区間用など
30~39	交流周用	
40~49	交流	
50~69	直流	最高運転速度85km/h以上。旧形客車機・新形機全般(交流切換区間用等を除く)
70~79	交流	
80~89	交流周用	
90~99	試作車両	

● JRになってからは3ケタの形式番号も登場しています。

③ 同一形式内での製造番号

製造順に1から付番。仕様・用途の違いにより番台区分することもあります(例: EF66100)。

● 形式称号以外に蒸気機関車では軸配置による区分表現があります。

下表はその主なものです。

主な軸配置の区分表現

軸配置 (●は動輪、○は先・従輪)	国鉄式	ホフ式	名称	主な用途	国鉄での主な使用形式
●●●●	1C	2-6-0	モーター	客貨周用	C50・C56・2800・7100(通称・伊勢号)他
●●●●	1C1	2-6-2	プレイリー	客貨周用	C12・C58・1270・3060・3170 他
●●●●	1C2	2-6-4	アンチ・バリアック	客貨周用	C10・C11
○●●●●	2C1	4-6-2	パンフィク	急行客貨用	C51・C52・C53・C54・C55・C57・C59 他
○●●●●	2C2C	4-6-4	ハドソン	急行客貨用	C60・C61・C62
●●●●●	1D	2-8-0	コンパニオン	貨物用	9030・9300・9500・9600 他
●●●●●	1D1	2-8-2	ミッドランダー	貨物用	D50・D51・D52
●●●●●	1D2	2-8-4	パークシャー	貨物用	D60・D61・D62
●●●●●	1E2	2-10-4	テキサス	重貨物用	E10

ディーゼル機関車 (DL)

ディーゼル機関車は、ディーゼル—Dieselの頭文字Dが先頭に付きます。後は、蒸気機関車、電気機関車に準拠します。



① 動力数を表す記号

先輪や中間軸、軸配置などには関係しません。

形式記号	B	C	D	E	F
動力数	2	3	4	5	6

② 機関車種類による形式番号

ディーゼル機関車の場合は、性能(最高運転速度)によって区分されます。

形式記号	性能
10~49	最高運転速度85km/h以下
50~89	最高運転速度85km/h以上
90~99	試作車両

③ 同一形式内での製造番号

製造順に1から付番。仕様・用途の違いにより番台区分することもあります(例: DD511000)。

● 新幹線用ディーゼル機関車は「911-2」のように3ケタの数字とハイフンより右側の製造番号で表します。

● 新幹線用ディーゼル機関車は「911-2」のように3ケタの数字とハイフンより右側の製造番号で表します。

電車・気動車・客車・貨車の形式称号

※機関車(SL・EL・DL)の形式称号については80ページをご覧ください。

電車・気動車(ディーゼーカー)・客車・貨車は、機関車とは異なる方式で形式称号が付けられています。最近の新形車両ではJR各社によって独特の称号が付けられる場合もありますが、多くの場合では旧国鉄と同様あるいは一部変更した規定となっている状況を考慮して、ここでは電車・気動車(ディーゼーカー)・客車・貨車の「国鉄式」形式称号についてご説明します。

電車 (EC)



① 車種を表す記号

- ・クモ…制御電動車(運転台付)
- ・モ…中間電動車
- ・ク…制御車(運転台付)
- ・サ…付随車

サロ152のようは急行運転台付きの車両には「ク」は付しません。

② 用途を表す記号

- ・ロ…グリーン車(旧2等→1等車)
- ・ハ…普通車(旧3等→2等車)
- ・ロネ…A寝台車
- ・ハネ…B寝台車
- ・シ…食堂車
- ・ユ…郵便車
- ・エ…救急車
- ・ニ…荷物車
- ・ル…配給車(車庫・試験車・工事車など)

③ 電気方式を表す形式番号

- ・1~3…直流用
- ・4~6…交流周用
- ・7~8…交流用

④ 車両構造による区分を表す形式番号

- ・0~2…通動形・近郊形
- ・3~4…(新形電車用)
- ・5~7…急行形(一部は特急形にも使用)
- ・8…特急形
- ・9…試作車両

⑤ 定義はありませんが、ほぼ登場順に奇数番号とそれから1差し引いた偶数番号が1形式に割り当てられます。

169系・489系のように、信越本線・横経対策車で9が共通の場合もありますが、119系・159系などは無関係で、絶対ではありません。

⑥ 同一形式内での製造番号

製造順に1から付番。仕様・用途の違いにより番台区分も多用されています(例: ハ115 1000番台)。

● 直流旧形電車

カタカナ部は上記①②と同じですが、数字5ケタのうち、上2ケタが形式(第2の数字の0~9は制御車・付随車・急行車・普通車(通常001番台)を表します。

気動車 (DC)



① 車種の重量区分を表す記号

- ・コ…22.5t未満
- ・ホ…22.5~27.5t未満
- ・ナ…27.5~32.5t未満
- ・オ…32.5~37.5t未満
- ・ス…37.5~42.5t未満
- ・マ…42.5~47.5t未満
- ・カ…47.5t以上

② 用途を表す記号

- ・ロ…座席車(グリーン車旧2等→1等車)
- ・ハ…普通車(旧3等→2等車)
- ・ハネ…B寝台車
- ・シ…食堂車
- ・ユ…郵便車
- ・エ…救急車
- ・ニ…荷物車

③ 動力装置(エンジン)方式を表す形式番号

- ・0…機械式・電気式気動車
- ・1~4…液体式機関1台付(6~9のものを除く)
- ・5…液体式機関2台付(6~9のものを除く)
- ・6~7…大馬力機関付
- ・8…特急形気動車
- ・9…試作車両

④ 運転台による区別

- ・0~4…両運転台付
- ・5~9…片運転台付運転台なし

⑤ 同一形式内での製造番号

製造順に1から付番。仕様・用途の違いにより番台区分することもあります(例: キハ40 2000番台)。

● JRになってから登場の気動車は、3ケタ式に従うもの、2ケタ式の空番を使うもの、独自の番号とするものなど、さまざまな形式称号になっています。

客車 (PC)



① 車種の重量区分を表す記号

- ・コ…22.5t未満
- ・ホ…22.5~27.5t未満
- ・ナ…27.5~32.5t未満
- ・オ…32.5~37.5t未満
- ・ス…37.5~42.5t未満
- ・マ…42.5~47.5t未満
- ・カ…47.5t以上

② 用途を表す記号

- ・イ…特別車(旧1等車)
- ・ロ…グリーン車(旧2等車)
- ・ハ…普通車(旧3等車→2等車)
- ・ロネ…A寝台車
- ・ハネ…B寝台車
- ・シ…食堂車
- ・ユ…郵便車
- ・エ…救急車
- ・ニ…荷物車
- ・ル…配給車
- ・ヤ…機関車

③ 4形式番号

1位数は未規定ですが現状です。

1位の数字	2位の数字
1 軽量客車	0 2軸
2 固定編成客車	7 ボギー車
3-5 一般形客車	
6 鋼体化客車	
7 軽便復旧客車	8 3軸
8 和式客車	9 ボギー車
9 特殊客車	

④ 同一形式内での製造番号

製造順に1から付番。仕様・用途の違いにより番台区分することもあります(例: オロネ25 300番台)。

● JRになってから登場の客車は、国鉄式に従うもの、独自の番号とするものなど、さまざまです(例: スロネE26)。

貨車 (FC)



① 用途を表す記号

- ・ワ…有蓋車
- ・ス…鉄骨有蓋車
- ・テ…鉄製有蓋車
- ・レ…冷蔵車
- ・フ…通風車
- ・カ…畜車
- ・ウ…鉄骨車
- ・バ…貨車
- ・ナ…送貨車
- ・ボ…散貨車
- ・タ…タンク車
- ・ミ…水罐車
- ・ホ…ホッパ車
- ・セ…石炭車
- ・ト…無蓋車

② 積載重量を表す記号

- ・なし…13トン以下
- ・ム…14~16トン
- ・ラ…17~19トン
- ・サ…20~24トン
- ・キ…25トン以上

③ 形式番号

形式番号は、0から付番(ワラ1などは1から付番)された製造番号も兼ねています。大量増備された貨車は飛番などにより不規則になっている場合もあります。JRになってから登場の貨車には製造番号をハイフンで区切る表記にしています。

	1位の数字	2位の数字	3位の数字
新幹線電車	系式タイプ0~8(0系の場合は付けない)	グリーン車1	制御電動車1
	9:事業用車	普通車2	制御電動車(パンタグラフ付き車)2
		食堂車とその合連車3	制御車3.4
		中間電動車(パンタグラフ付き車)6	5.7
		ダブルデッカー(2階建て車)4-5	付随車6
			8.9

● JR移行後に登場の車両や事業用車、試作車などは適合しない場合もあります。

② 商品の写真撮影（基本編）



① 全体（見開き）

説明書の有無
パーツやシールの有無
全体の状態



② 付属品

パーツやシールの
使用状況



③ 前面

前面の状態
パーツやシールの
取付、貼付状況



④ 全景（屋根上）

パーツの取付状況
屋根上パーツ・
パンタグラフの状態



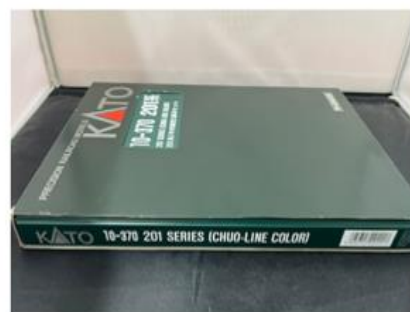
⑤ 動力車車輪

動力車の使用・
摩耗状況 汚れ



⑥ 紙ケース表裏

紙ケースの状態



⑦ 背表紙

ケースの状態
品番、JANコード確認
（ロット判断のため）

他には？

- ・ 破損、欠品
- ・ キズ、汚れ
- ・ 色挿し
（ウェザリング）
- ・ 加工、改造

写真は
撮りすぎの方が
「良」

③ 商品のコメント（基本編）



カテゴリ名	項目明細
モーター	
付属品	
特徴・備考	

- ① モーター：「○」…正常動作 「ー」…モーターなし
「走行NG」、「ギクシャクします」などは文言を手入力
- ② 付属品：「あり」…入っている 「なし」…欠品あり
「シール未使用」、「取付済み、残あり」などは文言を手入力
- ③ 特徴・備考：プラスマイナス問わず伝えておくべきこと
「室内灯取付済」、「カプラー交換済」、「アンテナ欠品」
「床下ウェザリングあり」、「パンタグラフ着色あり」
「パンタグラフ破損」、「前面ガラスキズあり」など

④ いよいよ発送！（梱包の前に）

① ライトは点灯するか？



② 動力車は走行するか？



他商品の発送時と同じようにオフモール掲載画面を確認し
付属品や状態に相違がないことを確認して
梱包、発送作業へ移りましょう！

鉄道模型研修 応用編

鉄道模型の掲載に慣れている方・少し慣れてきた方向け

目次

①商品の写真撮影(応用編)

②写真撮影のポイント

① 商品の写真撮影(応用編)



①サムネイル(表示画像)

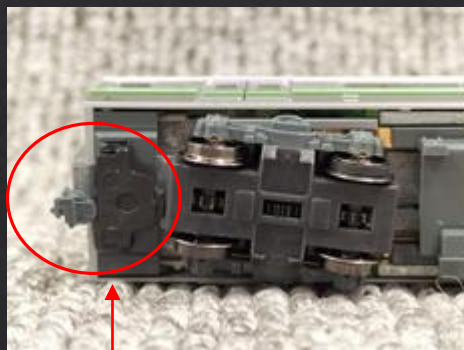
・車両にあまり詳しくない ライト層のヒット率UP

・鉄道写真に画角を寄せると走行時イメージが湧きやすい

・動作確認と一緒に撮影

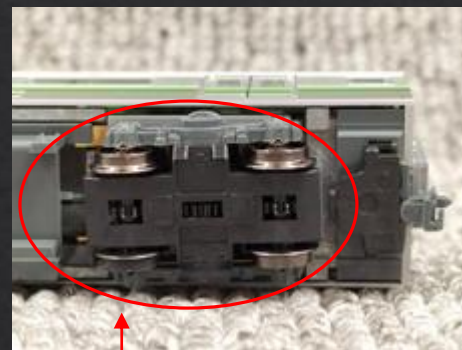


↑イメージ



②足回り1/2

カプラーも写るように撮影すると◎



②足回り2/2

拡大して車輪の状態も分かりやすく



③付属品

説明書、パーツ類の撮影



②-a 車両の状態

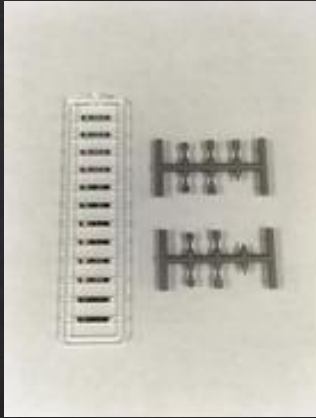
室内灯、ウェザリングや墨入れ加工の状態を撮影



②-a 車両の状態

拡大でどの程度手を加えられているのか分かるように

① 商品の写真撮影(応用編)



③付属品

袋から出して撮影
(販売後トラブル防止)



④全体図

画角に収まるよう撮影



⑤車両拡大

セット車両全体を俯瞰で
撮影した写真を載せてく
ださいと過去にお客様よ
り問い合わせがあったた
め
(見切れ・反射注意)



⑥箱前面



⑦箱背面

傷みが多ければ
箱の側面も数枚撮影す
ると◎

写真は撮りすぎの方が「良」

② 写真撮影のポイント

オフモールの販売を伸ばすために写真撮影スキルは重要！

素人っぽさを少なくする努力(付加価値)→少しの工夫で解決できる！



①ズーム機能の活用

②画角・背景・明るさを意識して質を上げる

③「反射」に気を遣う



×1.0撮影(左)と ×3.6撮影(右)

ズーム撮影は写真の仕上がりが綺麗



敷物やライトを使用して
他ジャンルの掲載の質も
上げてしまいましょう。



店内照明など。撮影者が
写りこむと恥ずかしい。

② 写真撮影のポイント

サムネイル画像の重要性

メリット

1. ライトユーザーからの購入促進

⇒ 知識が浅く車体の色や形で車両を覚えている人

⇒ つい商品詳細を知りたくなる雰囲気作り

2. ぱっと見で何の車両かすぐわかる

⇒ 箱の写真だと分かりづらい & 他の商品に埋もれてしまいがち

⇒ 箱の写真だと商品の魅力や個性が出にくい

デメリット

1. 慣れるまで時間がかかる

Point: 動作確認・状態確認と撮影を同時に行えば時間短縮

